英雄を導く無限の空

合歓の木

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
英雄を導く無限の空

【Ｎコード】
Ｎ３４０９Ｙ

【作者名】
合歓の木

【あらすじ】
魔法の天才でありながら、劣等生として過ごしていたナギ・スプリングフィールドは魔法学校を中退し、旅にでることにした。別の世界では一人でのスタートだったがここでは違う。隣にはこいつがいる。無限の可能性を秘める二人は、どんな道を、空をいくか。

Ｐｒｏｌｏｇｕｅ　二人のある日（前書き）

処女作であります。未熟者ですが、「作者よし、読者よし、世間よし」の精神で参りたいと思います。

Ｐｒｏｌｏｇｕｅ　二人のある日

ここはウェールズ、

ドドドドドドド！

イギリスの山奥の、自然にあふれた平和な村。

ドパパパパパパ！

ここには常識として、この世界には存在していないとされている魔法使い達が住んでいた。

ドカッ！　ドドガガッ！

そして今その平和な村の片隅で幻〇郷の妖怪達のごっこ遊びもかくやと思われるほどの弾幕戦が繰り広げられていた。

「今回は俺が勝つぜ、マキナ！今日はとびきり調子がいいんだ！『魔法の射手　連弾・光の４１矢』！！」

「む、なんの！『魔法の射手　連弾・水の４１矢』！」

光弾と水弾がぶつかりあい、打ち消しあっていき、その余波が地形を変えていく。

その弾幕戦の中心にいるのはあざやかな赤い髪の少年と、蒼い髪にこれまた蒼い瞳の少女。

「生憎、こっちも調子がいいよ！『連弾・砂の１３矢！』！」

「おわっ、今度は砂か！いよいしょ！」

砂弾が少年を襲うが高く跳び上がることで回避した。

「ナギ！もうすぐ5時になっちゃうからここで決めさせてもらうよ！『フォルテース・フォルトーナ・ユウァエト、来れ地の精、花の精、夢誘う花纏いて蒼空の下、駆け抜けよ、一陣の風《春の嵐》』！！」

少年は少女がこの勝負を終わらせようとしていることに少し寂しさを覚えたが、力比べは彼の大好物なのだ。

「おっしゃ、いくぜ！『マンマンテロテロ、来れ雷精風の精、風を纏いて吹きすさべ南洋の風《雷の暴風》』！」

ド　　ン！！！

先程までの比にならない威力のぶつかりあい、そして両者の顔に浮かぶのは心からの笑み。　　しかし、そこでいき場をなくした巨大な力の奔流は臨界を超え、

ドーーーーン！！！

「「わーーー」」

二人を吹っ飛ばした。

～～～～～～～～～

「いたたた、今日は引き分けかな？ナギ？」

「そのようだな～、えーとこれで俺の６勝４敗７引き分けだったかな？」　「む、違うよ！わたし勝ったの６回だよ～。ナギのほうが負けてたよ！」

「なに～！俺のほうが勝ってたろ～！」　「あり得ないよ、だいたいナギはこの前の算数のテスト２０点だったじゃん！１００点だった私のほうが正しいよ！」

「ぬあ～～それを言うな～！！くすぐってやる、この～」

言うが早いか、ナギはマキナにとびかかって、そのままくすぐりにかかった。

「キャ～～！あはははは！あは！にゃははっ！この～お返しだ～！ここか～ここがええのんか～」

「なんだそれ～あはははは！！やめろ～！」

その後はもうもみくちゃだった。さっきまで弾〇ごっこを繰り広げていた二人とは思えないような原始的かつ平和的なやり取りだった。

しかし、そこで一つ何か起こすのがナギだった。マキナの髪に鼻をくすぐられ、対女性凶悪兵器たる《武装解除》発射態勢にはいったのだ。

「えっ！ちょちょっとナギ！」

しかも強く抱き着いている上に真正面だった。

「ぶえっくしょん！」

そして予想通り、マキナの服の上半身は瞬時に吹っ飛んだのだった。

「キャーーーーー！！」

しかし、そこで新たに闖入者が現れた。

「こるるあ～～～！騒がしいと思ったら、やっぱりお前らか～！ナギ！マキ・・・ナ・」

ウェールズの雷おじさんこと、スタンさんであった。そして彼がそこで何を見たかというと、

上半身を剥かれてもがいてるマキナに抱き着くナギ。

「スタンさん、これｈ「ナギ」

気温が十度低下したように感じた。

「お前は物心ついたときから悪戯魔法三昧、皆に迷惑をかけてきたな。しかし、まだ十にもならんうちにそのような犯罪に手を染めるとは・・・」

「いやだから誤ｋ「せめてお前にさんざん迷惑かけさせられたこのわしが引導を渡さなければならんじゃろう」

自然とマキナを拘束する腕が緩んだ。自由になった彼女は胸を手で隠しながらできるだけ遠くへ逃げようと一目散に駆け出した。とにかく遠くへ、という一心だった。
そして彼女がナギの断末魔のようなものを聴いて見たものは、スタンさんの拳を受けて夕暮れの赤い空を飛翔するナギだった。

これは後に「千の呪文の男」と呼ばれたナギ・スプリングフィールドと、「無限の蒼空の姫」と呼ばれたマキナ・リリエフォルスの旅立ちの前の日常の一コマである。

Ｐｒｏｌｏｇｕｅ　二人のある日（後書き）

いきなり弱音吐きますが、早速「読者よし」でいれるか不安になってきました。面白い台詞を考えられたらなあと思います。あと表現力がほしいなあ・・・。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3409y/

英雄を導く無限の空

2011年11月8日05時22分発行